第 2011-09 号

# 恵みと真理のニュース

2011 年 12 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

## ［証］　すべての祈りに答えて下さる良き神様

私は子どものとき、町にある小さな教会へ通ったことがあります。しかし、大きくなってからは教会と離れてしまいました。1988年、神様を信じていない男に出会って結婚しました。二人の子どもを産んだときのことです。隣に住んでいた恵みと真理教会の首席区域長に伝道されました。最初は強く断りましたが、仲良くしていた友達が頑張って信仰生活をしている姿をみて、少しずつ信仰に対する関心をもつようになりました。そのとき、頑張っている友達がとてもうらやましくて‘友達だけ天国に行って、私は地獄に行ったらどうしよう。’そうゆう不安がありました。1990年10月、私を伝道してくれた首席区域長と一緒に初めて、恵みと真理教会に行きました。その後からも頑張って一緒に教会へ行きました。だんだん心の中に平安と喜びが訪れてきました。そして礼拝に参加することがとても楽しかったです。1993年、区域長に任命されました。区域長になってから大きな悩みができました。それは、祈ることに自信がないことでした。区域礼拝に参加すると、他の首席区域長や区域長たちは真心をもって、区域のみんなのために祈っていました。そのお蔭で私も信仰生活をする中で、とても助けられたと思ったので、私も区域のみんなのためにもっと上手く祈らないといけないという負担を大きく感じました。そのためには一生懸命に祈るしかありませんでした。一日に三回、四十日間、祈りの能力と聖霊のバップテスマを受けるために祈りました。その後、区域長セミナに参加して聖霊のバップテスマを受けることができました。どれほど望んでいたことだったのか、その喜びを隠せられませんでした。私の祈りを聞いて下さった神様が私と共にして下さることを経験したら、そのまま座っていられませんでした。期待感をもって町に行って伝道しました。“イエス様を信じて救われましょう。”と伝えました。私のことを聞いた、ある人が私に聞いてきました。“イエス様を信じたら何がもらえますか？”予想外の質問に私は固まってしまい、何も答えられずそのまま帰ってきました。御言葉の準備もできず伝道しに行ったことを後悔しながら、御言葉を読み始めました。そのとき、なによりも甘い御言葉の味を経験しました。“主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。”この御言葉を心にきざみつけて大胆な心で伝道しに行きました。今度は迷わず、固まらずに相手がどんな質問をしてきても余裕に答えられました。より感謝なことは伝道した人たちが私と一緒に教会に行ったことです。どれほど嬉しくて幸せだったのか、足りない私を遣わして下さる神様に感激しながらとても感謝しました。しかし私が頑張って伝道しに行ったりすると、旦那は迫害しました。私は旦那の魂がかわいそうに思いました。それで、旦那が救われるためにもっと頑張って切なく祈りました。

1996年のことです。運転もできない私が、高齢者と障害者を教会まで送ってくれる奉仕をしたら良いと勧められました。その時から、運転を習って免許を取りました。旦那にもその話をして奉仕のために車がほしいと言ったら、すぐ了解してくれました。車を買って初めて奉仕をする日でした。旦那は私一人で運転することが心配になるということで一緒に来てくれました。驚くことに、その日私が運転しながら奉仕をしていることを見て、旦那は一緒に教会に行ってイエス様を受け入れました。その主日1996年8月のことは、私の人生の中で忘れられない感激な日として覚えています。旦那の信仰は日によって成長していて6ヶ月後には私がやっていた奉仕を旦那が自ら引き継ぎました。ハレルヤ！新婚の時から私は神経性胃炎でとても大変でした。1993年、胃腸病が再発しました。その痛みはとてもひどかったです。特に夜中には、胃の中に何も入っていない状態になるため、もっとひどい痛みがありました。そのせいで冷汗をかきながら、起きる日々が続きました。病院に行って検査をしても神経性なので、特に薬もありませんでした。驚くことに、区域長祈り会に参加して熱く祈ると、その症状が治まっていたことに気づきました。また、食後に10曲以上の賛美を頑張って歌うと、すぐ消化できるのがわかりました。そこから、食後に10曲以上の賛美をして、御言葉も読んで、祈ることにしました。一ヵ月ぐらい経ってからは、夜中とてもひどかった痛みも、食後にあった消化不良もなくなりました。

神様は私を祈るようにさせます。そして、その後には必ず答えて下さいます。祈ったら区域長の務めを与えて下さり、伝道の実を結ぶようにして下さいました。また、旦那も救って下さって神様のために働くようにして下さいました。神経性胃炎もきれいに治して下さいました。このような経験を通して信仰をもって祈る時に力が与えられていると確信をもつようになりました。私たちを救って下さって祈りに答えて下さる神様に感謝と賛美、栄光を捧げます。“何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。”（ピリピ人への手紙4：6-7） この御言葉のとおり、どんな状況の中でも神様に祈りながら前に進んで行きます。

## ［信仰コラム］　聖書が言っている成功的な人生

**“また、ほめられたり、そしられたり、悪評を受けたり、好評を博したりすることによって、自分を神のしもべとして推薦しているのです。私たちは人をだます者のように見えても、眞實であり、人に知られないようでも、よく知られ、死にそうでも、見よ、生きており、罰せられているようであっても、殺されず、悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。”（第二コンリント6：8-10）**

人が成功することを求めることは当たり前なことです。しかし、ここで二つの質問ができます。‘成功したら幸せになりますか？’、‘成功の秘訣は何ですか？’ということです。何かの意味をもっていたことや目的していたことが叶えた、富や社会的な地位を得たという、辞書的な意味の成功が必ず人の幸せにプラスになるとは言えないのです。逆に、不幸になる原因だという事例を見つかることは簡単かも知れません。そしたら聖書の中で言ってしている成功はなにを指しているのでしょうか。

例え、必ずこのような成功をしなければならない、または、本当に強く心を決めて行動に移すとか、誰でもこのようにすると願っていた成功に近づけます。

成功とは、カンペキに終わらせた仕事の量ではなくて、働いている理由にかかっています。人は神様の被造物として神様を仕えながら、愛しながら生きていけるように造られました。ここに人生の理由と目的があります。‘こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。ユダヤ人にも、ギリシヤ人にも、神の教会にも、つまずきを與えないようにしなさい。私も人々が救われるために、自分の　利益を求めず、多くの人の利益を求め、どんなことでも、みなの人を喜ばせているのですから。　’（聖書中略）これが成功的な人生であります。このような成功とは、ある期間を超えてから確認できることではなくて、毎日確認できることです。

聖書の中で具体的な成功目標を見つけて実践するべきです。聖書は上で話したように人生の理由と細かい成功目標を提示しています。第一、聖なる、善なる、慈しくて、正しい信実な神様の人柄に相応しい行動をすることです。第二、キリスト人の義務である礼拝と伝道、献身、奉仕に頑張ることです。第三、‘主の中でいつも喜びなさい。絶えず祈りなさい。すべての事に感謝しなさい。’このように神様の人柄に相応しく行動しながら、キリスト人としての義務に忠実にする人がたとえ、社会の中で営んでいる事が思った通りにいかないとしても、社会地位を得ることができないとしても、このようなキリスト人は毎日を成功者として生きていることです。このすべてを神様が保障して下さいます。

聖霊様の導きを窺いながら付いて行くべきです。私たち個々のすべてのことについて、それが聖書の中に全部記録されていることとはいえません。しかし、聖霊様は各人たちと共にして下さり、いろんな事情によって私たちが何をどう決断するべきか、導いてほしいのです。使徒パウルがアジアに行って福音を伝えるために計画を立てて、もう行こうとしたとき、また、軌道修正をしてビディニアに行こうとしたときも再び聖霊様が止めました。パウルは夜中、幻想を見てマケドニア城のピリピへ足を運びました。そこから、二千年の時間が経った後、私たちが調べた結果、神様は各国と民族の中でたくさんの人々が福音を聞き悔い改めて、信じ救われるためには、福音がどうゆうほうに伝わるべきか、神様はすばらしい計画をもっていました。やっぱり私たちは、何をしても神様の素敵な計画の中で作られた人生を生きていくべきです。

辞書的な意味での成功のためにも、普遍的な公式があります。ビジョンをもつこと、具体的な目標を立てること、達成期間を決めることです。そして、叶えられると信じて、熱い心をもって努力するべきです。本や人の助け、協力を求めることが必要になります。また、我慢することです。しかし、先に究極的で普遍的な成功原理を適用するです。この世の中で生きている間、人々は部分的に自分が望んでいたことが叶えたことに祝し、喜びます。しかし総体的にみて、彼らは失敗の中で生きています。みなさんは聖書が啓示しているとおりに究極的な成功の道を歩みながら、毎日成功者としての喜びをもって生きていけるようお願い致します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

# 聖書に明らかにされた天国

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

**聖書：ヨハネによる福音書14章1節～3節**

人は誰でも死ぬわけですから、死んだ後に何が起こっているのかについてわかり求めてます。ところが、今地上に住んでいる人としては経験の外の仕事に属するため、様々な憶測をすることになります。しかし、天の真の知識と信頼を得る道は、聖書しかありません。天は果たして実在するか？実在すればどのような場所なのかについての知識は、聖書を通して取得する必要があります。″悔い改めよ、天国に近かったのである″これはイエスが公的奉仕を開始しながら初めて宣布されたメッセージです。弟子たちを派遣時も、″電波でマルハドゥェ天が近かった″と言われました。復活後の最後の説教も″神の国″に関するものでした。イエスの説教の最終的な中心的なテーマは、″神の国″″天球″に関するものでした。聖書の福音書に″天の国″″神の国'天国'という言葉が 100 回以上使用されています天国は、聖書の中心メッセージです。天国は、聖書が提示する究極的な願望です。誰もが死の正しい意味を知って、死の向こう側の世界への明確な知識と自信を持てば、この世の中を生きていく態度ははるかに変わるでしょう。今日は、聖書に啓示され、天国の実状について説明します。

## 第一、聖書は、天国が想像の中の架空世界や非実在のファンタジーの世界ではなく、実在している所である明らかにしています。

イエスは死の向こう側の世界の非常に現実的で生々しい話をされました。これは、金持ちとラザロの話です。ラザロは乞食に住んでいたが、神を恐れています。金持ちは世界で豪奢にもしながら、神を恐れていません。乞食であったラザロは死んだのです。葬儀のようなものがあるはずが出来ません。金持ちも死んでしまいました。葬儀を大げさに行いましたところが、金持ちの魂は、陰部に落ちて火の中で苦しんでいる一方で、ラザロの魂は、天使たちに崇めてしまいアブラハムの暖かい胸と呼ばれる楽園に上がって祝福を享受するようになりました。
また、イエス様は天が確かに実在している所である、こう言われました。″あなたがたは心を騒がせるしてはいけない、神を信じてまた、私を信じなさい、私の父の家に発生させるところがたくさんあるだろう。そうでなければ、あなたがたにわたしはあなたがたのために場所を用意しに行くようになって,あなたがたのために場所を用意すると、私は戻って来て、あなたがたをわたしのところにお迎えして私のところに、あなたがたも可能であろう″（ヨハネ 14:1～3）されました。

## 第二、聖書は天を形容する様々な名前が天国の性格と実像を言っいます。

″楽園″と呼ばれました。イエスが十字架に釘刺さって、その左右側にも、十字架が立てられた二人の强盗がぶら下がっています。行惡者の一つは、イエス様を誹謗して言った、″あなたがキリストではないかとあなたと私たちを救いなさい。″しています。その時、他の一つは、人を非難しています。″君が同じ非難を受けながらも、神を恐れはないのか、我々は、我々の行なった仕事にかなりの報いを受けることや、これは当然ですが、この人の行ったのは正当ではないことはないのである。″次に、イエスに向かって″イエス様、あなたの国に臨の際に私を考えまえ″と懇願しました。イエスは″まことに、あなたに言っておく今日のあなたは私と一緒に楽園にいるだろう。″されました。（ルカ 23:39～43）イエスは天を指して″私の父の家″としています。天国は家のように愛の交わりと安息があるの住まいであることを示します。天国で私たちは永遠に主とともに生きながら、完全な安息を得られるようになるでしょう。ヨハネの黙示録には″新しいエルサレム″としています。新しいエルサレムの姿について、ヨハネの黙示録 21 章で説明してあります。新しいエルサレム城にはないものがあります。死亡悲しい日と痛いことはありません。夜になく俗っぽいと忌まわしい仕事と嘘をつく者はありません。天国は永遠に新しいところです。
天国では、様々な概念を持っています。場所の概念ではなく、神の統治や主君に服従している個人、またはこうした人々の集まりを意味したりします。また、天の御父は完全に服従されたのイエスキリストを意味することもあります。イエス様がなければ、天国が存在することはできませんそして、イエスキリストの神の絶対主権と統治を喜んで受け入れる、その中に神の国が臨むようにされています。

## 第三、聖書は、天国の人の言葉はきちんと表現することができない所である明らかにしています。

使徒パウロは、楽園に連れられて行った体験談から、″楽園に連れられて行って話すことがない言葉を聞いたことがある人が十分に至らない話だ″（Ⅱコリント 12:4）しています。使徒パウロは、最高学府を優等生に出てきた人です頭脳が明晰で、文章力が黜仲です。彼はどのような物事について正確に表現できる能力を持っています。しかし、楽園に連れられて行った戻ってからはそれを形容する言葉を見つけることができませんでした。世の中にどのように備える事もないことがわかりました。私たちが将来、愛する主に会って、そのきらびやかな天国を見るようになったときに、使徒パウロが、″人々が十分に至らない話だ″と言った理由がわかるでしょう。我々は、世界でお世辞は良いことや状態を接するようにされると、天国と表現します。しかし私達が実際に天国に入っては、″私が想像して表現したのは、万分の仕事もならない。″と言うことになるでしょう。したがって、聖徒たちは天国を、企業に受けた人らしく明るくて幸せな姿で生きていかなければならない。
聖書を通して天国の実状を知って信じる人は、自分が天国に行くということをチャンスがあるように、他人に表明する必要があります。

どの篤いキリスト教信者の一人の女性に三人の息子がいました。そのうちの長男と次男は、信仰生活をよくしたが、末の息子は、信仰生活をしていません。この世を去らなければならない時が近づくと、その女性は三人の息子を呼んで、自分の前に座るように切り替えました″私の長男が、神を恐れる生活をするあなたを見ると心が嬉しいんだな神は常に祈ることを忘れないでね、また会おう。″
″私の第二子よ、神の御言葉を守って行う君が誇りに思って、君もまた会おう。″しかし、末の息子を眺めていた母は涙を流しながら彼の手を捉えました。″末っ子息子よ、どうか体元気に生きなさい、さようなら。″母が息を収める末の息子は、母の最後の言葉が気にかかりました。そして、決断を下しました。″母は信じて仕えていたイエス様を私も信じて仕えるができます。私もお母さんを天国でまたお会いしましょう″と言いながら信仰生活を開始しました。
聖徒の皆さん、誰もが例外なく、この世界を離れてください。しかし、天国の希望を持つ人は未信者のように死を恐れたり嫌惡する理由はありません。イエスキリストを信じて新たに出た人には、死とは魂が天国への玄関口であり通路であるからです。私たちの肉体のカーテンの家が崩れると、内なる人は、天使たちに崇め旅天国に入ることになるでしょう。あなたはイエス様の御言葉を忘れないでください。″あなたがたは心を騒がせるしてはいけない、神を信じて、わたしを信じなさい、私の父の家に居するところが多い″。天国はまさに皆さんのために予備された楽園です。父の家です。新しいエルサレムです。キリスト教の信仰の最終目標は、永遠の天国に入ることです。罪の赦し、再び生まれる、永遠の命、救われるという、すべての単語は、結局、天国で永遠に主と共に生きることと関連しています。したがって、福音を最も圧縮して宣言するようにすれば、″悔い改めよ、天国に近かったのである。″です。悔改とは何ですか？イエスキリストを自分の救い主として信じて受け入れたことです。もっと正確に言えば、イエスキリストを唯一の救い主と信じることは重大得る後悔です。天国への悔い改めです。天国に入ることは死の瞬間からではなく、実は後悔している瞬間からです。この世に生きる間に、自分の霊魂の中に″神の国″を受け入れた人は誰でも永遠の天国に受け入れられるようになるでしょう。
本当のクリスチャンが持つようになる、天国についての知識と信頼は完全に聖書の啓示に基づいたものでなければなりません。夢や幻想、またはどのような神秘体験をしては、自分が実際に天国と地獄を見てきたように言う人がいます。個人の体験につきまして批评理由は出来ません。それにより、信仰生活にプラスの変化と進歩を得るようにされたら幸いです。しかし私達が注意しなければならないのは、そうした個人的体験の証言や、本の中で聖書に反する内容がある場合です。聖書に违背教訓を伝える者には呪いが宣言されています。″あなたは見たこともない天国をどのようにして信じていますか？″という質問に対して、″聖書に啓示されているからです″と答える成する必要があります。そして、天国への希望と喜びがいつも満ちあふれることです。
恵みと真理のニュースを読んでくださる皆さんの家庭とすべてのことに、神の助け心がいつも一緒にことをお祈りします。